

アレクサンドロス大王(マケドニア王国)の東方遠征

年代	できごと
前 338 年	カイロネイアの戦いがおこる スパルタを除く
前 337 年	コリントス(ヘラス)同盟が成立
前 336 年	アレクサンドロス 3 世、マケドニア国王となる
前 333 年	イッソスの戦い
前 331 年	ガウガメラ(アルベラ)の戦い
前 330 年頃	アケメネス朝を滅ぼす 大王の有力な部下たち
前 323 年	アレクサンドロス大王が死去、ディアドコイ(後継者)による争いが始まる ⇒ 3国に分裂

◎マケドニアの台頭

○カイロネイアの戦い(前 338 年)・・・マケドニア vs. テーベ・アテネ連合軍
 マケドニアのフィリップス 2 世が台頭し、テーベとアテネの連合軍に勝利

コリントス(ヘラス)同盟の成立・・・ギリシアを支配下に
 マケドニアが盟主となり、スパルタを除くギリシアのポリスと結ぶ

○アレクサンドロス大王の東方遠征・・・アケメネス朝を滅ぼし、インダス川西岸まで進出
 イッソスの戦い(333 年)
 ガウガメラの戦い(331 年) } マケドニア王国およびコリントス同盟連合軍 vs. アケメネス朝
 ダレイオス 3 世を破り、アケメネス朝を滅ぼす



↑アレクサンドロス大王

アレクサンドロス大王の死後、残された土地をめぐってディアドコイ(後継者)が争う

セレウコス朝シリア・プトレマイオス朝エジプト・アンティゴノス朝マケドニアの 3 国に分裂

◎ギリシア文化

【ギリシアの神話と文学】

オリンポス 12 神を中心とする神話の世界観をもつ
 ・ホメロス・・・ギリシア最古の詩人:『イリアス』『オデュッセイア』
 ・ヘシオドス・・・叙事詩人:『神統記』『労働と日々』

悲劇・・・アイスキュロス・ソフォクレス・エウリピデス ⇒ 「三大悲劇詩人」
 喜劇・・・アリストファネス:『女の平和』『女の議会』



【哲学・自然科学】

イオニア自然哲学・・・前 6 世紀にイオニア地方のミレトスを中心に発達

タレス	イオニア学派の祖。万物の根源は水
ピタゴラス	「ピタゴラスの定理」をみつけた自然哲学者・数学者。万物の根源は数
ヘラクレイトス	「万物は流転する」と主張。万物の根源は火
デモクリトス	原子論的唯物論の主張。万物の根源は原子(アトム)

前 5 世紀以降、ギリシア文化の中心はアテネへ

プロタゴラス・・・代表的なソフィスト(弁論術を教える職業教師)。「万物の尺度は人間」と主張

ソクラテス	ソフィストを批判して、心理の絶対性を主張 「無知の知」(みずからの無知を知ること、無自覚なものより優れる)
プラトン	ソクラテスの弟子。永遠不変の存在であるイデアを主張
アリストテレス	プラトンの弟子。「万学の祖」とよばれ、当時のあらゆる知識を体系化

◎ヘレニズム文化

ヘレニズム時代・・・東方遠征からプトレマイオス朝エジプトが滅亡するまでの約 300 年間
 オリエンタ的要素とギリシア的要素が融合したヘレニズム文化が発達

【ヘレニズム時代の思想】

エピクロス派	エピクロス	心の平安による快樂主義を主張
ストア派	ゼノン	理性を重視し、個人を普遍的な世界の一因とみる

・コスモポリタニズム(世界市民主義)・・・国に縛られず、世界を 1 つの共同体とする考え方

【哲学・自然科学】

エウクレイデス	平面幾何学(ユークリッド哲学)を大成
アルキメデス	浮力の原理(アルキメデスの原理)、てこの原理を発見
アリストアルコス	地球の自転と公転を主張し、地球と太陽の距離を算出
エラトステネス	地形を球形と考え、その周囲の長さを測定